

平成22年度決算の概要

今回の定例会に、平成22年度一般会計決算及び5つの特別会計決算が提出されました。

本会議では、一般会計決算については18人で構成する決算審査特別委員会を設置して付託され9月12日から15日まで行われ、特別会計決算については建設環境委員会、市民厚生委員会に付託され、それぞれ原案のとおり認定されました。

一般会計決算の審査から

5つの元気施策の成果と状況は

問 平成22年度決算の新規・レベルアップ事業における「5つの元気施策」の状況は。

答 新規・レベルアップ事業は32事業、そのうち「子育てが元気」のつくし保育園建設費補助、「まぢが元気」の防犯フェスティバルなど11事業は完了、残り21事業は平成23年度に継続実施している。また、7事業は市制40周年記念事業として実施しているのが特徴となっている。財源は32事業中19事業を国・都補助金等の特定財源で賄い、一般財源支出は8801万円余りで、全体事業費の78%は特定財源活用で実施した。

市民税の課税状況について（個人分のところへ）

問 市民税の個人分の普通徴収は対前年比27.41人の4.8%減で、年金特徴も加わり減少が進んでいるが、その内容をどのように見ているのか。

答 給与特徴は大きな変化はないが、年金特徴は増加傾向。普通徴収が減少しているのは営業所得、譲渡所得、普通徴収の給与所得が減少しているもので、景気低迷の影響と思う。所得が200万円以下の納税義務者数が増加し、それを越えた所得者は減少し、全体的に所得が低い方にシフトしている、課税にならない人数が増加していると思われる。

臨時財政対策債について

問 臨時財政対策債2億8千万円の利率は幾らで、何年間で返すのか。

答 利率は1.1%、返済期間は20年だが、借入れ10年後に利率は見直しがある。地方交付税の基準財政需要額に臨時財政対策債償還費が載っているが、3億5274万円である。

男女共同参画推進費について

問 22年度に男女共同参画推進審議会が開催されたが、設置理由と審議の内容、構成メンバーについて伺いたい。

答 第4期行動計画策定に向け、DV法の改正、仕事と生活の調和憲章の制定など、男女共同参画に対する社会の流れ等を踏まえ、基本的な考え方について審議した。メンバーは学識経験者と福祉関係者、小・中学校の校長から1名、商工会会長、公募市民2名の計6名である。

22年度参議院議員選挙費の経費削減は

問 22年度の参議院議員選挙において、開票事務は前の選挙に比べどれだけ経費が削減されたか。また、高齢者雇用はどう

だったのか。当初予算を組む時の目標に対してはどうだったのか。

答 前回選挙の19年比で10%ほどの経費削減を目標にしたが、227万8366円減、11.3%減となり目標は達成できた。また、執行経費が減った部分で、開票事務等の委託をシルバー人材センターの10名に携わっていたが、高齢者雇用及び経費削減につながると考える。

学童クラブ待機児童について

問 現在、待機児童はゼロだが、武蔵野台クラブと第2武蔵野台クラブはそれぞれ定員53名のところ、23年3月1日で30人と20人の受け入れ状況だ。一方、亀の子クラブは定員45人に61人である。22年度の状況と、今の時点どう考えるか。

答 二つの学童クラブに分かれている武蔵野台クラブは、第一小学校と第六小学校児童の受け入れをしており、都型学童クラブ事業補助金の申請要件である。生活スペース1.65平米の確保とあっては、少しくもゆとりのあるスペースでの育成に努めている。

地球温暖化対策補助金の実績は

問 地球温暖化対策として太陽光発電を中心に取り組んでおり、昨年比でかなり増加していることは評価しているが、時代が要請する金額からいうとさらに伸ばしているが、今年度の申請件数と実績について伺いたい。

答 申請は7月、10月、1月と3期に分けて受け付け、初回は申請順、2回目、3回目は抽選で実施し、毎回801万円の予算額の3割である267万円まで助成できる形で申請順に助成し、1期目は50件のうち31件、2

期目は79件のうち37件、3期は82件のうち36件助成している。

地域ブランド発信モデルの成果は

問 地域ブランド発信モデル事業で、市内観光ツアーガイドは参加者の評判が大変よかったとのことだが、この成果をどのように見ているか。

答 22年度は通常のガイドツアーを5回、地元商店街を回るテイステイングツアーを1回実施した。特にテイステイングツアーは定員10人のところ

る満員で、地域の商店街で普段は入りづらいところにも入りやすかったと好評である。今後、実施される商店街まつりにも「くるみるふっさ」が参加し、ツアーを行うなど効果的に商店街の振興につながっていると考えている。

給食における地場野菜の使用状況は

問 給食における地場野菜の使用状況が前年度と比べてどのような変化があったのか。また米飯給食が減っているようだが、

答 状況は伺いたい。21年度は22回で10種類、22年度は32回13種類の食材を使用している。米飯給食は文部科学省で週3回以上の実施が望ましいとなっているが、当市の給食センターは非常に狭く、作業行程における衛生管理の問題により献立内容に制限が生じることから、週2・5日を限度して考えているが、米粉を原料とした米粉パンを月2回程度使用してできるだけ週3回に近づけている。



▲平成22年度一般会計決算を起立多数で認定

平成22年度 会計別決算額

会計区分	歳入決算額	歳出決算額	残額(翌年度繰越額)
一般会計	219億4,024万0,326円	215億5,430万7,089円	3億8,593万3,237円
特別会計			
国民健康保険特別会計	58億4,804万6,611円	60億3,403万0,148円	▲1億8,598万3,537円
老人保健医療特別会計	414万8,048円	414万8,048円	0円
介護保険特別会計	30億0,571万6,814円	29億5,370万8,813円	5,200万8,001円
後期高齢者医療特別会計	8億5,877万7,904円	8億3,593万8,119円	2,283万9,785円
下水道事業会計	15億5,385万5,019円	15億2,558万1,698円	2,827万3,321円
総合計	332億1,078万4,722円	329億0,771万3,915円	3億0,307万0,807円

平成22年度 一般会計決算の款別内訳 ()内の数字は合計に占める割合

平成22年度		平成21年度	
歳入	割合	歳出	割合
81億36万9,549円	(36.9%)	95億8,240万5,776円	(44.4%)
35億1,030万3,340円	(16.0%)	26億534万6,215円	(12.1%)
31億734万6,380円	(14.2%)	26億141万8,395円	(12.1%)
28億2,797万8,000円	(12.9%)	24億945万2,457円	(11.2%)
14億5,729万3,000円	(6.6%)	12億7,519万1,859円	(5.9%)
6億1,929万7,000円	(2.8%)	12億2,195万5,438円	(5.7%)
5億5,323万9,088円	(2.5%)	8億7,788万1,359円	(4.1%)
3億6,833万4,866円	(1.7%)	5億425万500円	(2.3%)
3億640万円	(1.4%)	2億7,163万4,520円	(1.3%)
2億5,957万899円	(1.2%)	1億4,806万1,208円	(0.7%)
8億3,010万8,204円	(3.8%)	5,670万9,362円	(0.2%)
歳入合計	219億4,024万326円	歳出合計	215億5,430万7,089円